

また、同会合開催中、今後の OECD 事務局の活動方針を議論するビューローメンバー会議が開催され、是川も7名からなるビューローメンバーの一人として参加した。同会合では来年1月に開催予定のハイレベル政策会合の内容について議論が行われた。(是川 夕 記)

第10回人口地理学国際会議

2019年7月1日から3日にかけて、英ラフバラ大学 (Loughborough University) において第10回人口地理学国際会議 (10th International Conference on Population Geographies, 以下 ICPG と略) が開催された。ICPG は、人口地理およびその関連分野の研究者が定期的集って最新の研究成果を発表する国際的な学術集会として、2002年の第1回大会 (英セント・アンドリュース) 以降ほぼ2年ごとに開催されている。今回の大会では、17の一般セッションで約90の研究報告が行われたのに加え、2つの基調講演セッション及び *The Future of Population Data* と題するパネル討論セッションが設けられた。基調講演では、トランプ政権誕生以降の米国内における移民人口の分布の変化に関する分析や、イギリスの EU 離脱 (いわゆる Brexit) をめぐる混乱について、国境を越えて移動する人々の視点からの考察に基づく報告が行われ、こうした政治的動向の影響への関心の高さがうかがわれた。一般セッションのテーマは、国内・国際人口移動、地域人口、家族・世帯、高齢化・ライフコースと多岐に及び、いずれも活発な討論が行われたが、前回大会 (2017年、米シアトル)、前々回大会 (2015年、オーストラリア・ブリスベン) と比較して、地域人口推計に関する手法や評価に関する研究報告が少ない印象を受けた。

当研究所からは、林玲子 (国際関係部長)、小池司朗 (人口構造研究部長)、菅桂太 (人口構造研究部第1室長)、鎌田健司 (人口構造研究部第2室長)、井上希 (社会保障基礎理論研究部研究員)、筆者の6名が参加し、以下の研究発表を行った。

(いずれも口頭発表)

- Reiko Hayashi "Health and long-term care workforce shortage and the role of migration"
- Shiro Koike, Keita Suga and Kenji Kamata "The Methods and Results of the Regional Population Projections for Japan"
- Masataka Nakagawa "Migration of Adult Children, Living Arrangements and Geographical Distances to Parents: Analysis of the Japanese National Survey on Migration"
- Keita Suga, Shiro Koike, Kenji Kamata, Futoshi Ishii, Miho Iwasawa and Masakazu Yamauchi "Municipal Death and Birth Projections Consistent with IPSS (2018) Regional Population Projections of Japan: 2015-2045"
- Kenji Kamata, Shiro Koike, Keita Suga, Masakazu Yamauchi "An Evaluation on the Accuracy for the Regional Population Projections in Japan - Investigation on Spatial Dependencies in the Age-Specific Projection Error Rates"
- Takashi Inoue and Nozomu Inoue "The Web System of Small Area Population Projections for the Whole Japan and its Applications: Focusing on Rapid Aging in Japan"

なお、次回 (第11回) の ICPG は2021年9月に東京で開催されることが決定しており、ラフバラ大会2日目の夕食会では、次回のホスト校となる青山学院大学の井上孝教授による大会案内のプレゼンテーションが行われた。(中川雅貴 記)